

公開実用 昭和62- 29256

⑨ 日本国特許庁 (JP)

⑩ 実用新案出願公開

⑪ 公開実用新案公報 (U)

昭62- 29256

⑫ Int. Cl. 1

B 24 D 7/06
3/28
3/34

識別記号

庁内整理番号

7712-3C
7712-3C
7712-3C

⑬ 公開 昭和62年(1987)2月21日

審査請求 未請求 (全頁)

⑭ 考案の名称 石材やコンクリートの練成物等の表面研磨砥石

⑮ 実願 昭60-118642

⑯ 出願 昭60(1985)7月31日

⑰ 考案者 河田謙三 高松市紙町535番地

⑱ 出願人 有限会社 河田エンジニアリング 高松市紙町535番地

⑲ 代理人 弁理士 馬場 五男

明細書

1. 考案の名称

石材やコンクリートの練成物等の表面研磨

砥石

2. 実用新案登録請求の範囲

型盤に所要方向の梢円孔群を穿設し、この各梢円孔にその上部まで合成樹脂液と適量のダイヤ粒及び石粉等の研磨材を流入し、その流動研磨材の上にダイヤ粒や石粉並に着色染料等に合成樹脂液を混入した着色流動物を充填して、その上に回転盤を接着し、これが凝固後脱型して回転盤に研磨突子群を設けてなる石材やコンクリートの練成物等の表面研磨砥石。

3. 考案の詳細な説明

1. 考案の目的

本案は石材やコンクリートの練成物等の工作物の表面を研磨する砥石に関するもので回転盤に配設する所要方向の梢円突子群の下部に着色部を設けて石材やコンクリートの練成

№ 1

708

実開(昭)29256

物の研磨中に、研磨突子群の消耗による消失により回転盤を損傷しないようにしようとする目的である。

ロ. 考案の構成

本案は図面に示すように、型盤 A に所要方向の横円孔群 1... を穿設し、この各横円孔群 1... にその上部まで合成樹脂液と適量のダイヤ粒及び石粉等の研磨材 2 を流入し、その流動研磨材 2 の上に、ダイヤ粒や石粉並に着色染料等に合成樹脂液を混入した着色流動物 3 を充填して、その上に回転盤 B を接着し、これが凝固後脱型して回転盤 B に研磨突子群 1'... を設けてなる構成に係るものである。3'は突子群の下部の着色された部分を示す。

ハ. 考案の効果

本案は、上記のように構成してあるから、研磨突子群 1'... はその下部に着色部 3'を形成するため、研磨中に研磨突子群 1'... が磨耗に従つて着色部 3'に達すると、研磨水

が着色される。研磨水が着色すると、研磨突子群 1' . . . の磨耗の限界を知り、回転盤 B に達する前に、新しい研磨突子群 1' . . . を形成した回転盤 B と取替えるから回転盤 B を損傷する事がない。而して、研磨突子群 1' . . . の消失した回転盤 B は再度研磨砥石に再生して使用することができる。

4. 図面の簡単な説明

第 1 図は脱型した本案砥石の斜面図、第 2 図は型盤 A と回転盤 B との断面図を示す。

A : 型盤、B : 回転盤、1 : 楕円孔群、1' : 研磨突子群、2 : 研磨材、3 : 着色流動物、3' : 着色部。

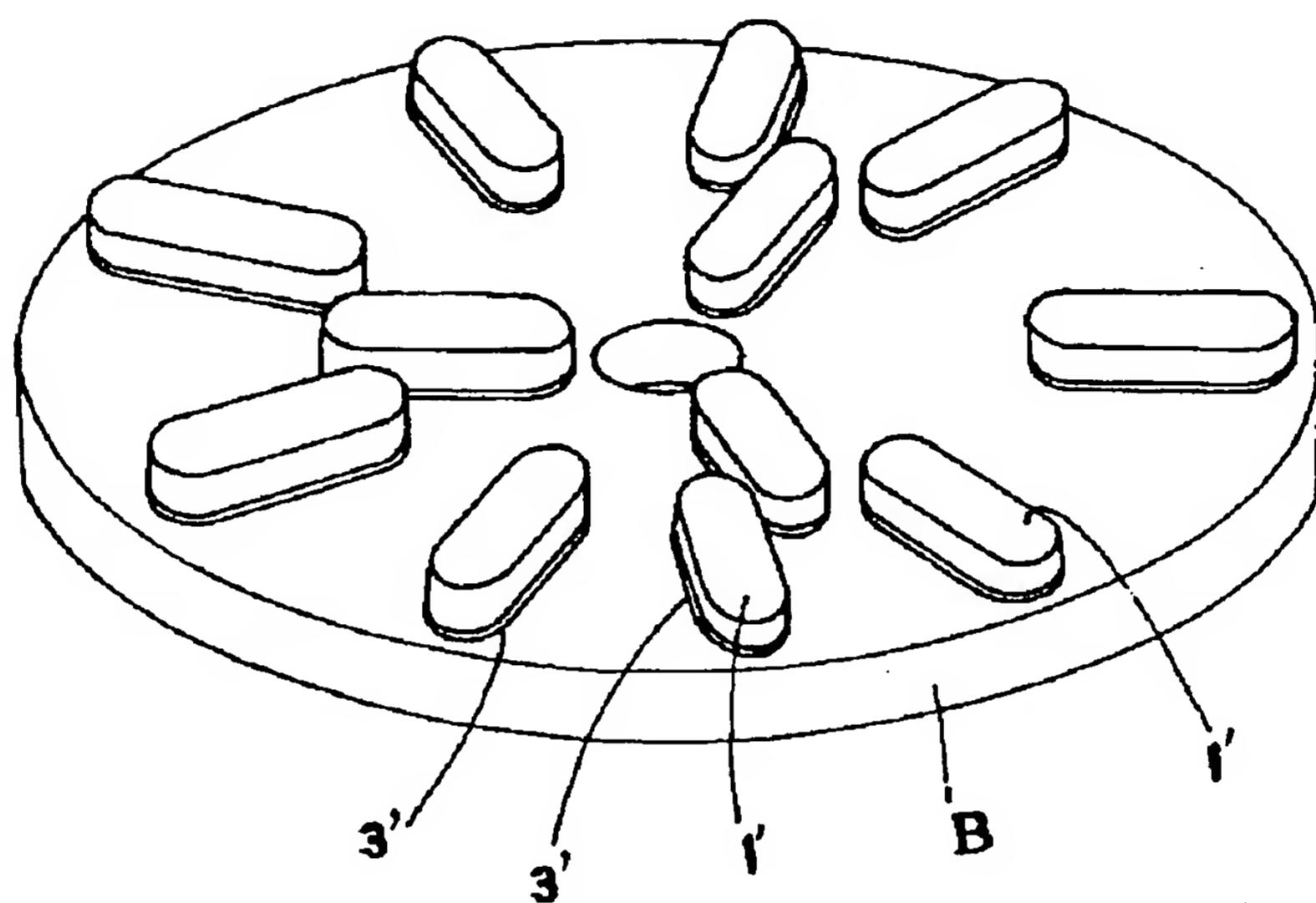
出願人 有限会社河田エンジニアリング

代理人 馬 場 五 男

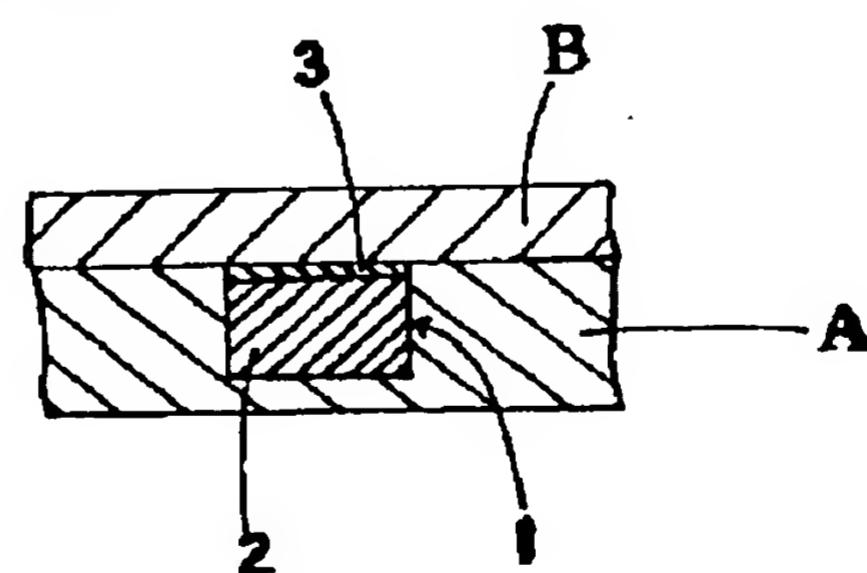


公開実用 昭和62- 29256

第1圖



第2圖



711

五男馬場人間